

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400314		
法人名	医療法人 寿生会		
事業所名	グループホーム 寿生の家 (桜ユニット)		
所在地	島根県出雲市上塩治町2854-3		
自己評価作成日	平成21年9月29日	評価結果市町村受理日	平成21年 11月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者家族や地域の方にも参加頂いて定期的に開催し、

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成21年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①職員の勉強会や法人内研修、外部研修に積極的に参加して自己研鑽に努め職員会の場で研修報告を行っている。②接遇(言葉使い、笑顔、態度等)を徹底するよう接遇委員を設けており、他職員も接遇研修をきちんと行っている。③利用者や職員の特技を活かし、畑(さつま芋、里芋)や奈良漬を作り、芋煮会・バザーで地域の方と交流を図っている。又地域の古紙回収を利用している。④花壇やプランターで四季の花を育て、利用者様や来所の方々の癒しの場になっている。⑤利用者の希望、要望を取り入れ外出(墓参り、自宅へ外出、生地、新婚旅行地、理髪店、外食、お花見等)を積極的に行き、理念の実現に努めている。⑥遠方の親しい縁者の方に写真や手紙で近況を知らせ大変喜ばれている。⑦職員の退職、移動も無く認知症対応の年数も得、馴染みの関係で家族から安心の声をいただいている。⑧フィッシュ哲学を取り入れている。職員の良い所を認め専用ボードに貼り出しお互いを高め合い、自他共に生き活きと楽しく働いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の医療・保健・福祉の柱となっている医療法人により運営されており、協力病院や関連機関と連携をとりながら、利用者は24時間365日安心して生活されている。資格を持った経験豊かな職員が殆どであり、職員の離職や異動も殆ど無い為、利用者や家族、又、職員同士の信頼関係も構築されてる。家族同士が待ち合わせて交流される姿も見られ、家族や地域と一緒にあって、利用者を支えている様子が窺える。法人としても、職員の育成の重要性を十分認識して、計画性をもった工夫がされており、職員の能力向上への熱意が感じられる。職員はいつも理念を共有し、利用者の意思を一番に考えた支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来る限りそれまでの生活習慣を取り入れてその人らしい生活をつくりあげるための理念を掲げている。理念は玄関に掲示し、職員、利用者、家族に、常に目に付くようにしている。	掲げている理念は、スタッフと共に考えたものである。法人理念に基づき、地域の中での暮らしを支えるための独自の理念となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい	散歩の時など挨拶したり会話をするようにしている。花を分けてくださった事もある。秋の収穫祭にバザーを行い、近隣にもチラシを配って気軽に立ち寄ってもらえるような機会をもっている。夏の花火大会にも声掛けし気軽に来ていただいている	近隣の親子を誘っての花火大会など、法人として地域に根付いており、地区の福祉活動の一環として多くの行事に、利用者と一緒に参加している。地域ボランティアとの交流も日常的で、利用者が積極的に地域に溶け込める工夫をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	芋煮祭のとき、職員の特技を活かし利用者と一緒に奈良漬、クッキーなど手作りのものを販売し地域の方の好評を得ている。畑で採れた具材の豚汁でもてなしている。認知症への理解を深めるため便りを配り役立てていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での情報や話し合いの結果や意見を職員会議で共有したり、職員の意見を聴いて活かせるようにしている。会議の場で施設の要望をご家族にお知らせしたり、ご家族の思いや意見を聴いたりして有効に活用できている。	利用者家族や地域の方にも参加頂いて定期的に開催し、活発な意見交換をしている。6月の家族会に合わせ、利用者の様子をスライド上映したり、ケース報告なども行われていた。又、交番の方を招く予定もある。	決まったメンバー以外に、ゲストを招いての話し合いは、内容を深め、話題の広がりから、新たな発見が期待されます。又、交代で一般職員も参加されるとよいでしょう。
5	(4)	○市町村との連携	必要以外は特にそういう機会は作っていない。	権利擁護制度を利用の方の相談をしたり、市のグループホーム協議会や地域の連絡会、研修会等に参加し、相談の機会を設けている。	利用者の不穏な状態が長期化する事は、本人はもとより、他の入居者や家族、職員に与える不安やストレスが心配されます。市や包括など外部も交えてケース検討し、助言を得る事をお勧めします。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、研修や勉強会なども行っている。身体拘束虐待対策委員会を職員会議で行って職員全員の認識を図り、また、そういう芽もなくすようにしている。	日中は玄関に鍵を掛けず、常にホールや事務所に職員がいて目配りしている。落ち着かれない利用者がある時だけ、チャイムで知らせるようにしてある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会での情報を全職員に伝達し、マニュアルも作成している。身体拘束虐待対策委員会も職員会議の場で行い、そういう行為につながる芽もなくすように職員皆で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一名の方が権利擁護事業を利用されている。成年後見制度を利用されている方もある。適宜、情報・知識の共有をして活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ事前に見学していただいたり、十分に説明を行って同意を得て契約をしている。やむなく退所となる場合もきちんと話し合い理解、納得を得てから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、まず理念を話し、要望等を聴いている。月毎の行事や面会のときにもお互いに情報交換を行い新たな要望についても気軽に伝えていただいている。直接伝えていただくだけでなくサービスカウンターに意見ポストを置いている。	広報誌の送付や、毎月各利用者の担当職員が、ご家族宛にコメントを書いて、日々の様子をお知らせしている。行事には家族を案内し、利用者と共に生活している様子が、家族にも十分理解できるように工夫する等、意見を引き出す努力をしている。	毎月の家族への出納簿のコピー送付や、担当職員や管理者が個別のコメントを書き添えたおたよりは、後日確認出来るように事業所でも保管される事をお勧めします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別の面接で意見を聞き取り入れ反映できるようにしている。年度初めに職員からの意見を法人への要望として提出している。	全職員が半年ごとに、個人目標を決めて提出し、管理者と面談を行っている。スタッフ間の関係が良好で気軽に相談出来る体制にある。情報の共有化と職員の能力向上に努めており、職員の学習、向上意欲が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の目標ややりがい、職場環境、家庭の状況等について、また体調や個人的な悩みについても、年に二回は面接を行って話し合いの場をもち、改善できる点があれば検討したりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や施設内勉強会が計画されており、積極的に参加している。また外部研修にも年1回は必ず参加するようにしている。外部研修は必ず伝達講習を行い全体のスキルアップにつなげている。パート職員も研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や管理者同志交流を持っている施設もあるので、情報交換を行い良いことは取り入れている。職員の交換研修や見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用となる前に必ず会って、グループホームで生活する事に関しての意見や要望を聞いている。悩みや不安も受けとめる様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に出来るだけ本人、家族と情報交換の場を持ち、悩みや訴えを聴き、把握するようにしている。担当のケアマネージャーからも意見を聞いて様々な面で理解出来る様に心かけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、家族、担当ケアマネージャーや相談員等と情報交換しながら、本人、家族の意向を十分に取り入れた対応を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事、洗濯、副菜作り、掃除のど一緒に行い支えあっている。また、昔の言葉や煮物の作り方など教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族の参加を呼びかけ、また家族と外食、外出、外泊など行っていただき、ご家族が共に過ごす時間を提供している。面会時には、お茶を共に飲み、日頃の様子や世間話が弾んだりする良好な関係を築くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、お寺、墓参り、お店、他施設、病院（入院中の方）など、それまでの馴染みの人や場所がある方で、本人が希望されれば家族や職員の付き添いで行けるように努めている。	馴染みの場所や店へ、家族や職員と一緒に出掛けている。家族と頻りに外出や外食をされる方や、家族が宿泊される方もある。又、遠方の親しい縁者の方に写真や手紙で近況を知らせ、大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方は隣の席にしたり、一緒に作業してもらったりする。散歩やゲーム、ドライブなど共に関わり合う機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、入所時からの写真でアルバムを作成してプレゼントしたり、特養、病院などに面会に行ったりして関わりをもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に希望を聞きながら対応している。居室で煎茶を飲まれる習慣のある方には毎朝職員がお湯を沸かしている。困難なケースは、本人、家族をまじえてカンファレンスを行い、本人中心のケアプランになるようにしている。	馴染みである担当職員を中心に、利用者の思いを汲み取っている。日常の記録はフォーカスチャータリング方式を使用し、利用者の言葉で、記録を残しており、誰が見ても解り易く、職員や家族との情報共有もスムーズである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時に出来るだけ多くの情報が得られるよう、家族や担当ケアマネージャーなどと情報交換している。その情報が生活に活かされるように心がけている。(清掃業、調理師、編み物等)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況をリーダーが相互的に把握し、申し送りメモを利用して確実な申し送りをを行っている。管理者も申し送りに参加して状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人や家族に希望や要望を聞き、ケアプランに取り入れている。	居室担当者を中心に、定期的ケアカンファレンスを行っている。3ヶ月に1回は、本人や家族の意向、職員の気づきや最新情報を集め、現状にあったプランに見直している。又、支援内容が変わった時は、随時、担当者会議を開き、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリングを使用して記録している。問題ばかりでなく、良かった事も記録に残すようにしている。家族の要望なども記録しており勤務時に、目を通して情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と常に情報交換しながら、状況の変化や要望を把握し、日々の対応や外出、外泊など柔軟に対応している。空室を利用してショートステイも受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の情報を得たり、毎月2回ハモニカのボランティアの方が演奏に来てくださっている。他の行事にもボランティアの受け入れが増えてきている。地域の行事への参加や近隣の保育園との活動も増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談してかかりつけ医を決定している。定期健診、急変事の対応等、きちんと情報交換しながら、行っている。	かかりつけ医は、本人や家族が決定している。協力病院である法人の病院にかかっている方が多く、連携により安心した生活を送っている。皮膚科や歯科は往診に来てもらっている。次回受診日は事前におたよりで家族に伝え、情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるので常に状況を把握し健康管理や医療面での管理を行っている。必要時には家族への情報提供もきちんと行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず相談員や家族と連絡を密にとり、早期退院や、退院後の生活について本人、家族が不安にならないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が変化した時は家族へ情報提供をきちんと行っている。重度化した場合も本人、家族が不安になつたりしないように担当医師からのインフォームドコンセントをきちんと行い同意のもとで看取りまで行うのかどうかの判断もしている。	資格を持った経験豊かな職員と協力病院との密な連携により、チームでターミナルケアの経験を重ね、その人らしい最期を迎えられるように支援している。ケアの開始にあたっては、医師からのインフォームドコンセントをきちんと行ってもらい、本人、家族の要望に沿った方針を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度は急変時の対応についての勉強会を行い、心肺蘇生や、吸引機の使用方法についても訓練を行っている。勉強会には、パート職員も参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練を行っている。夜間想定でも行っている。法人内の他施設からの応援を依頼するようになっている。塩治地区の消防団の方に参加していただいたことがあるが、常に連携し、運営推進会議への参加も考えている。	緊急連絡装置が設置されており、火災発生場所がわかる。災害時のみならず緊急時には、法人他施設からの応援体制が整っている。年2回、夜間想定を含め避難訓練を行い、具体的な検討がされている。最低限の備蓄は事業所内にも置かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように個人的な情報交換は詰所や利用者のおられない場所で行っている。排泄の声掛けや排便の確認などは小さい声で周囲の方に気を使っている。	法人一丸となって、研修を始め、職員への教育がされている。利用者の個室に入る際のノックや声かけなど日常の場面でも配慮が伺えた。個人情報に関する文章や同意書などもきちんと整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かしたい事はないか、行きたいところはないか、など尋ねたり、飲みたい物、食べたい物などが、選択できるような状況をつくらしている。入浴も、昼夜に行い本人が選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活習慣を把握して活動などは無理強いせず、本人のペースに合わせてようにしている。希望も聴きながら、活動に参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、その日に着る服を選んでいたり、納得のいくまで鏡の前で身だしなみを整えてもらったりしている。毛染めも本人に色を決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては法人内業務委託となっているが、昼食のみご飯を炊き、副菜の材料を届けてもらい、利用者と一緒に調理している。また、月に1回は献立から調理、会食、片付けまで一緒に行っている。	食事は法人内全て業者委託されているが、昼の御飯だけは自分達で炊き、副菜も1品は必ず利用者と一緒に作り、食後のデザートは皮むきや片付けもしている。また、自分達で献立を決め、買い物や調理全てを行う日も増やしている。おやつも煮しめや手作りが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が少ない時は、間食出来る様に支援している。水分摂取しにくい方は、ジュースなど好みのものを摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けや介助を行い、清潔が保てるように心掛けている。義歯の洗浄にも注意している。義歯の破損などないかの確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄前の行動を把握し、そういう行動が見られれば速やかにトイレ誘導を行っている。出来るだけトイレで排泄していただけるように支援している。	必要な方には、排泄時間のチェックを行い、排泄パターンを把握したうえで、無理のないトイレ誘導や水分摂取を促している。季節や昼夜により紙パンツやパット、下着を使い分ける等、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘気味の方は日ごろから水分摂取量に注意している。出来るだけ体を動かしたり、薄めたセンナ茶を利用して便秘にならないように注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後2時からとしているが、希望されたり、その方がいい方は夜間(夕食後)に入浴していただいている。毎日でも対応している。	浴室は眺めが良い場所にあり、広くて明るい。夕方の入浴や毎日の入浴など利用者の意思を尊重したうえで、支援を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、気持ちよく休めるように、夜間入浴を行ったり、明かりの調節や、室内の匂い等に気を配り、ソファーやベッドの環境を整えるようにしている。活動や作業の無理強いはない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を常備し変更等あった時は確認している。服薬についてもチェック表を作成して、誤薬防止に努めている。服薬後の症状の変化にも注意しながら観察している。また、内服薬の知識についての勉強会を行い、薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や特技を活かし、台所での調理や片付け、奈良漬作り、畑仕事、掃除、洗濯などの場面で活躍出来る様支援している。男性には日曜大工的な仕事もしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への外出、墓参り、散髪、買い物、外食、ドライブ、花見など希望を聞きながら出かける機会を作っている。年に1度は遠足を行い、利用者の状態に合わせた外出を行っている。誕生日には特別な外出の機会を設け、喫茶店やすし屋へお連れしたりする。	毎日敷地内の散歩が日課の方もいる。職員と一緒に近くのスーパーに買い物に行き、自分で支払いされる方もいる。利用者の希望、要望を取り入れ、外出(墓参り、自宅へ外出、理髪店、外食、お花見等)を積極的にを行い、理念の実現に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や理解力に応じて、お金を所持していただいている。希望あればお店へお連れし、ほしいものを購入され、自らレジで支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば家族に自ら電話していただいたり、家族からの電話を取り次いでいる。年賀状のやり取りや誕生カード、また、写真や手紙で近況を知らせたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、掲示物を季節に合わせたたり、雛飾りやこいのぼりを飾り、季節を出している。風が気持ちよいときは、庭でお茶を飲んだり、育てたトマトを食したり、花を摘んだりする。	懐かしさを感じさせる家具や小物、季節の花や絵が飾られ、居心地の良い空間になっている。畑作業が難しくなられた利用者には、手のかからないプランターでの園芸を楽しんで頂いている。換気やポータブルトイレの更新など、臭いには十分気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、畳のスペースでお昼寝していただいたり、居場所の工夫をしている。テーブルの配置にも気を遣っている。屋外にもベンチを置いて利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れたものを、持参して頂くようにお話している。寝具も使い慣れた毛布やタオルケット、枕など馴染みのものを使用していただいている。こたつ、カーペット、夏はござなどの模様替えも適宜行っている。	利用者が自宅で使い馴染んだ家具や大事な物を持ち込んで頂き、安定した生活の場の提供を心掛けている。手作りの名札がかけられ、畳やカーペットを敷いたり、利用者の希望に沿った居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、手すりを設置したり、トイレには、大きく表示して、わかりやすくしている。段差は無く、スロープもある。ソファやテーブルの配置も工夫し自由に使えるようにして自立していただいている。		